

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動書】
奈良市立ならやま小中学校野外活動支援 活動報告書

英語教育専修 4 回生 川口 綾菜

1. 実施日 2023 年 6 月 22 日(木)
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 教育学専修 4 回生 中家 麻弥 特別支援教育専修 4 回生 山本 留維
英語教育専修 4 回生 川口 綾菜
4. 活動の概要

2023 年 6 月 22 日に、奈良市青少年野外活動センターにて、奈良市立ならやま小中学校の小学 5 年生の野外活動が行われ、その支援を目的として本学ユネスコクラブの学生が参加した。活動支援の具体的な内容は、オリエンテーリングと野外炊飯の補助、アイスブレイクとしてのスタンプの実施などである。



オリエンテーリングの様子
(屋内)

5. 参加学生の学び・感想

今回の野外活動では、子どもたちを巻き込んで活動するということの難しさを感じた。レクリエーションでは、参加出来ず楽しめていない子が出てしまったり、野外炊飯の火の管理では子どもに任せきれず私が中心になって行ってしまったりした。活動すること、楽しませること、または時間調整や先生の指示にばかりを考えてしまい、子どもたち一人一人に目を向けられていなかったと感じる。野外活動は子どもたちの学びや成長のためのものであるため、もっと広い視野を持ち一人一人が参加し活躍できる場を作っていくべきだ。今回の学びから、もっと余裕を持ち周りを見ながら、全員を巻き込んで活動していきたいと思った。

(教育学専修 4 回生 中家 麻弥)

初めて野外活動支援に参加したため、全ての活動においてたくさんの発見と学びを得た。特に、児童に役割を任せつつ、確認が必要な部分はきちんと大人が確認することの重要さは身に染みて感じた。例えば、寝具がないと騒ぎになったとき、私たちが数を確認して配布する形に変えていたため、早い段階で宿泊室にあるのではないかと予想がつき、すぐに見つけることができた。もし、寝具を取るのを児童だけに任せていたら、本当に人数分取ったのか、始めから数が足りなかったのか等、様々な可能性が浮かびすぐには解決しなかつただろう。このように一日を通して確認しておいてよかったという場面と、確認しておけばよかったという場面どちらも体験した。確認の大切さは野外活動支援に限った話ではないと思う。日頃から意識していきたい。

(特別支援教育専修 4 回生 山本 留維)

私は野外活動支援を通して、指示を通すことと子どもを引き込むことの大切さを実感した。アイスブレイクとしてスタンプを実施した際、声をはりあげてもなかなか伝わらず、流れが悪くなってしまった。また、何人かの児童は少し後ろの方におり、全員を熱中させることができなかった。児童たちの緊張を解き楽しませるためには、音や掛け声などの工夫で子どもたちの興味をひき、指示を通してスムーズに進めることが大切だと学んだ。今回はボランティアの方々を支えられたが、次回からはたとえ人手が少なくても子どもたちを引き込めるよう、事前に工夫を考え備えておこうと思う。

(英語教育専修 4 回生 川口 綾菜)